

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.141 2005.11.1

お城と城下町

発掘双六

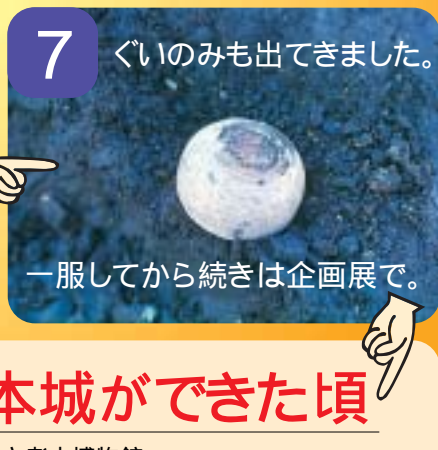
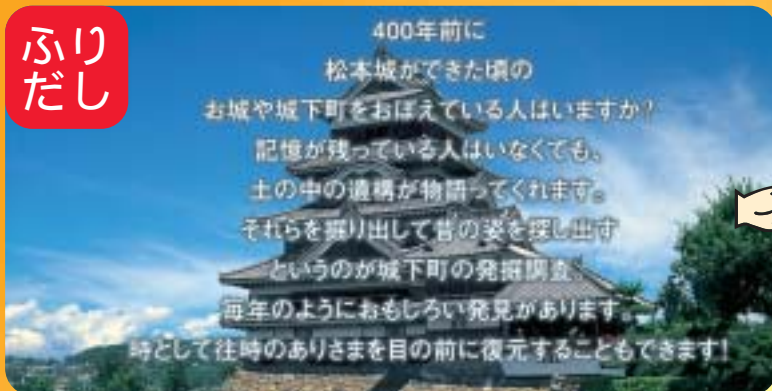
考古博特製

はっくつ

すごろく

不許複製

ふりだし



企画展 松本城ができた頃

- ❖ 会場 松本市立考古博物館
- ❖ 会期 平成17年10月22日(土)～12月18日(日)
- ❖ 開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- ❖ 問合せ先 松本市立考古博物館
(TEL 0263-86-4710)

もくじ

- 誌上博物館◇『遺愛集』が語りかけるもの……………2, 3
- 新市域を歩く③◇梓川地区の博物館と文化財……………3, 4
- ガイドコーナーはんでんぼく……………4

あがり

『遺愛集』が語りかけるもの 窪田空穂記念館 平成17年度企画展によせて

『遺愛集』という歌集があります。著者は島秋人（しま・あきと）という人です。彼は昭和42年（1967）11月2日、33歳のとき絞首刑で亡くなりました。そう彼は死刑囚だったのです。秋人の生涯と秋人を支えた人々そして短歌について紹介します。

島秋人、本名は中村覚（後に養子となって千葉覚）は昭和9年に現在の北朝鮮で生まれました。父は警察官で満州や朝鮮半島の各地に赴任しました。太平洋戦争末期、家族は故郷の新潟県柏崎市へ引揚げてきましたが、終戦をむかえて父は仕事を失い、たちまち家族の生活は苦しくなりました。覚少年は元来病弱で、結核やカリエスになり、7年間もギブスをはめて育ちます。小中学校時代、成績は一番下で、まわりからうとんじられ、性格がずさみました。やさしい母も15歳のときに過労（栄養失調）で亡くなりました。周囲に認められない彼は非行に走り、強盗や殺人未遂、放火などの罪で特別少年院や刑務所に入りました。この間ヒステリー性性格異常と診断され、医療刑務所にも入っています。また出所後は県立の療養所に強制収容されてもいます。



島秋人の少年時代の自画像

昭和34年4月飢えに耐えかねて一軒の農家に押し入り主人に重傷を負わせ、その妻を殺害します。35年3月に地方裁判所で死刑判決、36年に高裁で死刑判決、37年最高裁で死刑が確定しました。その際、国選弁護士として秋人の弁護を担当した土屋弁護士は、その過程で秋人の性格や気持ちに触れて、上告の際には私選弁護士として無償で刑の減刑に尽くしました。残念ながら、その努力は報いられませんでした。その姿は秋人の心に大きな影響をあたえました。

無期なれば今の君なしと弁護士の

言葉憶ひつつ冬陽あびをり

秋人の短歌との出会いは、最初の死刑判決の7ヵ月後、中学生時代の担任で、美術教師の吉田先生に、児童画を見たいので送って欲しいという秋人の手紙に対する返信でした。吉田先生は「絵はへただけで構図がいいね」と秋人のそれまでの人生の中で唯一ほめてくれた人だったのです。返信には児童画の他に先生の奥さん（絢子さん）の短歌3首が添えられていました。それは故郷のお寺や住職を詠んだものだったのですが、なつかしく、心に沁みるものでした。秋人は短歌に魅力を感じ、つくりはじめます。吉田先生の奥さんの指導もあり、36年からは毎日歌壇の

窪田空穂選に投稿をはじめました。同年1月28日初入選。以後入選を重ね世間にその存在を知られることとなりました。

ほめられしひとつのことのうれしかり

いのち愛しむ夜のおもひに

島秋人のペンネームは、故郷で住んでいた町名（島町）と家の前にあるお寺の境内に秋葉神社があったことや季節が秋だったこと等から吉田先生の奥さんがつけてくれたのですが、秋人は「人」の字に正しい人にかえるという意味を込め「あきひと」と思っていると空穂あての手紙に書いています。秋人の短歌は亡くなるまでの7年間に毎日歌壇に224首が入選し、その内80首が特選となっています（窪田空穂記念館調べ）。昭和38年には上半期の毎日歌壇賞を受賞し、人生ではじめて賞というものを受けました。

ぬくもりの残れるセーターたたむ夜

ひと日のいのち双掌に愛しむ

昭和37年、死刑の判決が確定したことを知った前坂和子さん（当時高校生）から、「貴方がなくなられたとしても貴方の歌は私のように貴方の歌によって深い感銘を受けた人々の心のなかで生きています。それは貴方のこころが生きているということと同じだと思います」という手紙が届き、以後文通や面会、花の差し入れなどが亡くなるまで続きました。彼女が高校の文化祭に秋人の歌を「いあいしゅう」と題して発表し、これが歌集『遺愛集』の題となりました。

養母の愛師の愛君の花差入し

情うれしと憶ひ優しむ

死刑囚となった秋人は何か自分が世間のできる償いはないかと考え、角膜移植や献体をしようと思います。しかしそのころ家族と籍を分けた秋人には、その思いを遂げる術がありませんでした。以前からキリスト教の信仰を秋人に伝えつづけていて、信仰の上で姉と慕っていた千葉てる子さんにこの思いを告げ、昭和40年養母になってもらうことができ、死後その望みがかなうこととなりました。養母を得た秋人は幼い子を持つ母親を殺した自分の罪の重さを改めて悟るのでした。

角膜の献納せむと乞ひて得し

養母なり養母は優しさに豊む

秋人と空穂は生涯会うことはできませんでした。しかし、短歌をとおして、また書簡をとおして心の交流が続きました。当時高齢であった空穂は日常生活の限られた事象を題材に短歌を作っていました。秋人もまた拘置所という狭い範囲での出来事から受けた感動を短歌にして「へたくそでも真実の歌を詠んでゆく」と決めていました。老齡ゆえに死を身近に感じている空穂と死刑囚として死を意識せざるを得ない秋人。この短歌にたいする態度と死への想いが、より二人を近づけたのかもしれない。往復書簡の中で、

人生や死に対する態度や考えを披露する空穂がいて、それによって慰められ、励まされる秋人。処刑の夢に怯える秋人の手紙に「打ち克ちなさい。歌を作りなさい。作歌は私が気をつけて見てあげる。貴方は不幸ではない。縫れるものにすぎていることです」と答える空穂。この手紙の半年後に空穂が亡くなります。さらに半年後、秋人も処刑の日をむかえました。

縫れよと歌を詠めよと云ひたまふ

九十の師のみふみあたたかし

『遺愛集』は生前、出版を申し出る人が何人かいましたが、最終的に死後出版として空穂に託されていました。

空穂の死後、子息章一郎氏の尽力で生前出版をすることになり、何よ^い先歌集を手にするのを希望していた秋人ですが、処刑の日は突然やってきました。

秋人が亡くなって1ヵ月後『遺愛集』は世に出され、いまも秋人のこころを伝えています。

この澄めるころ在るとは識らず来て

刑死の明日に迫る夜温し

(窪田空穂記念館 学芸員 田川恵美子)

出典：島秋人『遺愛集』東京美術 昭和42年

前坂和子『書簡集 空と祈り』東京美術 平成9年

梓川地区の博物館と文化財

今年4月1日の合併で誕生した新しい松本市の新市域を紹介しています。安曇地区、四賀地区に引き続き、第3回目となる今回は、新しい松本市の中心に位置する梓川地区の文化財と博物館を紹介します。

1 梓川地区の概要

旧梓川村は北アルプスの東麓、梓川の左岸に広がる田園地帯で、現在は、平地での稲作と山麓地帯での林檎をはじめとした果樹栽培が盛んです。また、近年は、通称「農面道路」沿いに大型販売店や飲食店が相次いで出店し、郊外型の商業地として大変賑わっています。

梓川流域の扇状地にあたるこの一帯からは、縄文式土器、弥生式土器が出土しており、古くから集落が形成され、発達してきていたことがうかがえます。中世には、豪族の西牧氏（滋野氏）が勢力をのばし、この地域の河川開発、水田開拓に力を注いで、現在につながる穀倉地帯の基礎を築きました。西牧氏は、平安時代にこの地方に移住してきたものといわれ、中世には梓川溪谷から住吉地区までの一帯を支配した豪族で、重要文化財に指定されている真光寺の木造阿弥陀如来座像及び両脇侍像、大宮熱田神社本殿、大宮熱田神社若宮八幡宮本殿など、西牧氏に由来する数々の文化財が現在に伝えられています。

梓川地区は、江戸時代には安曇郡として松本藩政下であり、18村落に区分されていました。明治以降の廃藩置県による政策の中で、各々合併し「上野村」「梓村」「倭村」の3村にまとめられました。その後、明治22年（1889）「上野村」「梓村」が合併して「梓村」となり、昭和30年（1955）にさらに「梓村」「倭村」が合併し「梓川村」となり、今年の4月の松本市との合併で新しく松本市梓川となりました。

ちなみに、梓川の梓は、もともとは樹木の名前で、この木が梓川流域一帯に多く自生していたことによるといわれて

います。良質な弓、梓弓の原材料としても広く知られ、万葉の時代、歌にも詠まれました。

2 梓川地区の文化財

梓川地区の指定文化財は、国の重要文化財も含め、現在15件あります。

真光寺は、明治の廃仏毀釈以前は、高野山金剛頂院末の真言宗、以後は曹洞宗となり、その起源は『信府統記』によると、建仁年間（1201～1203）に創建し、天文15年（1546）に西牧氏により中興されたとなつていますがはっきりしていません。重要文化財の木造阿弥陀如来座像、脇侍の勢至菩薩立像は鎌倉時代の像造、観音菩薩立像は室町時代の造像の特徴を示していて、檜材の寄木造になっています。すでに漆箔はかなり剥落していますが、一部に残る金箔に往時を偲ぶことができます。

大宮熱田神社は、本神山の麓にあり、祭神は梓水神、日本武命、天照大神ほかの神々です。重要文化財に指



真光寺阿弥陀三尊像

定されている本殿、若宮八幡宮本殿は室町時代の建築ですが、この神社の創建は鎌倉時代初期と考えられています。社地には県指定天然記念物の御神木・大樅の木のほか樅の大木が何本もあり、樅の大木の林があったことがうかがえます。地区の信仰もあつく、4月下旬の祭礼には氏子から5台のブテン（山車）が引き回され、江戸時代後期、嘉永2年（1849）の「大宮大明神祭礼規定」をほぼ忠実に守って傳承されています。

また、梓川地区は安曇野の玄関口にあたり、道祖神の宝庫でもあります。その数は、78か所86基にのぼり、古くは明和年間（1764～1772）のものとしてされる下角の道祖神から平成の道祖神まであり、1800年代前半のものが多く確認できます。その形状も多岐にわたっており、文字碑、彫像、またそれらが複合したものなど、様々です。氷室では「道祖神の通せんぼ」と呼ばれる道祖神祭りも行われています。小室七日山金毘羅宮の参道や、金松寺前参道には石仏群が残っており、花見では現在も子どもたちを中心として、正月に「御柱」が行われていて、地域に根ざした文化財が大切に伝承されてきていることがうかがえます。



氷室の道祖神

3 梓川地区の博物館

松本市立博物館附属施設の梓川アカデミア館（電話0263-78-5000）は、梓川地区の歴史・民俗を常設展示しています。縄文時代から江戸時代に至る地域由来の資料の数々と、かつての人々の生活道具が整然と分類・展示され、この地域のあゆみが概観できるわかりやすい展示構成となっています。また、地元出身の写真家・中沢義直氏の関係資料展示室や、多目的の展示ギャラリー、飲食施設が設置されており、地域の文化活動の拠点となっています。



梓川アカデミア館

梓川地区にはこのほか、地元で収集された貴重な民俗資料を収蔵・整理している梓川民俗資料館があり、市立博物館の附属施設となっています。

（博物館 学芸員 山岸弥生）

ガイドコーナー はんでんぼく

馬場家住宅から

☎85-5070

ソバ打ち体験教室

日時 11/12（土）午前9時から
定員 40名（要申込）参加費500円

窪田空穂記念館から

☎48-3440

将棋子ども教室

日時 11/19（土）
（指導）午前10時10分～12時（試合）午後1時～3時
定員 50名（要申込）
* 午後は大人の部（指導のみ）もあります

百人一首子ども教室

日時 11/12（土）・26（土）、12/10（土）
午前10時10分～12時
定員 各回30名（要申込）

企画展「ある死刑囚の短歌と空穂 - 『遺愛集』(島秋人著) が語りかけるもの - 」

期間 11/27（日）まで

記念朗読劇「鬼灯（ほおずき）」

日時 11/5（土）午後2時から
定員 50名（要申込）観劇料1,000円

はかり資料館から

☎36-1191

はかり資料館無料開放

日時 11/3（祝）午前10時～午後3時
* はかりづくり教室も同時開催します。

松本民芸館から

☎33-1569

企画展「生活に生かす美・漆器(japan)展」

期間 11/1（火）～3/12（日）

時計博物館から

☎36-0969

「レコードの日」SPレコードコンサート

日時 11/3（祝）午後2時～3時

バス見学会「御時計師・渡辺虎松を訪ねて」

日時 12/7（水）
定員 20名（要申込）

梓川アカデミア館から

☎78-5000

手仕事の日々...三姉妹展

期間 11/3（祝）～11/6（日）

安曇資料館から

☎94-2134

冬期休館

期間 11/16（水）～4/26（水）

旧開智学校から

お知らせ

☎32-5725

重要文化財旧開智学校と静岡県賀茂郡松崎町の重要文化財旧岩科学校が姉妹館の提携をします！

姉妹館提携式

日時 11/5（土）午前11時から
会場 重要文化財旧開智学校 2階講堂

あとがき

今回の表紙はすごろくです。「思い通りにならないのはサイコロの目...」とは昔からの言葉ですが、私の毎日はそれに加えてしばしば「1回休み」、時には「ぶりだしにもどる」...?? (MM)

あなたと博物館 No.141

発行年月日 平成17年11月1日

編集・発行 松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL : <http://www.city.matsumoto.nagano.jp>

e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp